

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア


















インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/5 （12/22との比較） 今後の見通し （※4）	1/5 （12/22との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	2.15% （+0.13）	91.10円 （+2.37%）	+3.0% 2017年3Q	1.00%	製造業PMIは前回分を上回り、雇用変化率や失業率などは市場予想を上回る良好な結果。良好な経済指標のほか、イランでの反政府デモによる原油価格の上昇を受けて、カナダドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	住宅着工件数や住宅建設許可件数などの発表を予定。良好な雇用統計から中銀が利上げをする可能性が高まったため、カナダドルは下値が堅い展開を想定するも、引き続き原油価格などにも注意が必要。
	Aaa	 金利上昇		 景気拡大	 利上げ局面		
ブラジル 	BB	9.17% （▲0.32）	35.01円 （+3.13%）	+1.4% 2017年3Q	7.00%	貿易収支や鉱工業生産は市場予想を上回る結果。政府の基礎的財政収支が市場予想に反して黒字を確保したことに加え、堅調な資源価格が好感されたため、レアルは対円で上昇。国債利回りは低下。	貿易収支や小売売上高などの発表を予定。引き続き堅調な資源価格を受けて、レアルは買いが優勢となる可能性があるものの、年金改革の先行き不透明感が強いいため、上値は重い展開を予想。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 利下げ局面		
メキシコ 	A-	7.43% （▲0.28）	5.89円 （+2.75%）	+1.5% 2017年3Q	7.25%	製造業PMIは前回分を下回る結果。一方で、NAFTA（北米自由貿易協定）再交渉で輸出が落ち込むと懸念されているが自動車輸出と生産は堅調な結果。中銀が為替介入を行ったため、ペソは対円で上昇。国債利回りは低下。	CPIや鉱工業生産などの発表を予定。米国の法人減税で投資におけるメキシコの競争力の低下が懸念されていることや、NAFTA再交渉の不透明感からペソは神経質な展開を想定。
	A3	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/5 （12/22との比較）	1/5 （12/22との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.64% （▲0.07）	88.90円 （+1.82%）	+2.8% 2017年3Q	1.50%	貿易収支は前回分より低下するなど経済指標が低調な中で、米国や中国の製造業PMIの結果が良好だったほか、資源価格の高騰や世界的なリスク選好姿勢の高まりから、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは低下。	住宅建設許可件数や小売売上高などの発表を予定。今月中銀の金融政策決定会合の予定がなく、豪ドルは資源価格に左右される展開を予想する一方、高値警戒感から利益確定売りが出やすく、上値は重い展開を予想。
	Aaa	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.77% （+0.02%）	81.09円 （+1.97%）	+2.7% 2017年3Q	1.75%	2017年末から2018年最初の週にかけて、ニュージーランドで主だったイベントはなし。商品市況が全般に底堅く推移する中で資源価格は堅調となり、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは小幅上昇。	やや天井感の見られるニュージーランドで景気が再加速しインフレ率が上昇する兆しが見られるかが注目材料。住宅関連統計は、2018年1月からの住宅ローン規制強化を控えた駆け込み需要で盛り返す見込み。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.55% （▲0.01）	14.05円 （+3.13%）	+3.2% 2017年3Q	0.50%	小売売上高が市場予想を大きく上回り増加した一方、住宅価格は減速が続くなど経済指標はまちまち。原油価格が上昇したこともあり、ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは小幅低下。	景気は緩やかなペースでの拡大が継続。利上げ観測が強まるためには、より堅調な経済指標とインフレ率の上昇の確認が必要。鉱工業生産とCPIは安定した動きが見込まれ、通貨は原油価格動向に左右される見込み。
	Aaa	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/5 （12/22との比較） 今後の見通し （※4）	1/5 （12/22との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	7.84% （+0.16）	9.16円 （+2.17%）	+0.8% 2017年3Q	6.75%	11月の貿易収支が大きく増加した一方、民間の製造業PMIは低水準。与党が現大統領の罷免検討との報道を受けて、政権の早期新体制移行への期待から、ランドは対円で上昇。国債利回りは上昇。	製造業生産などの発表を予定。党首選の結果に対する市場の反応は一服したもよう。今後、財政難など山積した課題が同国資産価格への下押し圧力となると想定。政治的なヘッドラインに注意。
	Baa3	 金利上昇		 景気鈍化	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB-	5.74% （▲0.25）	0.84円 （+0.86%）	+5.1% 2017年3Q	4.25%	コアCPIの前年比伸び率が鈍化。中銀は2018年から預金準備率を一段と緩和する方針。また、海外投資家の債券売買フローの純流入が続いたことなどを背景に、国債利回りは低下。ルピアは対円で上昇。	主な経済指標の発表はなし。米国で国債利回りが安定的に推移する中、相対的な利回り水準の高さが選好され、海外からの資金が流入しやすい地合いを予想。ルピアは底堅く推移する見込み。
	Baa3	 金利低下		 景気拡大	 利下げ局面		
インド 	BBB-	7.15% （+0.08）	1.78円 （+0.86%）	+6.3% 2017年3Q	6.00%	製造業PMIは前回分を上回る結果。財務相は年度内で追加で5,000億ルピー相当の債券による資金調達を行う可能性があることを示唆し、財政悪化が懸念され、国債利回りは上昇。ルピーは対円で上昇。	CPIや鉱工業生産、貿易収支などの発表を予定。GST（物品・サービス税）の影響は一時的で、経済は今後も堅調に推移すると予想されるも、政府の財政悪化懸念の高まりからルピーはレンジ内の推移を想定。
	Baa2	 金利横ばい		 景気回復	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回り表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

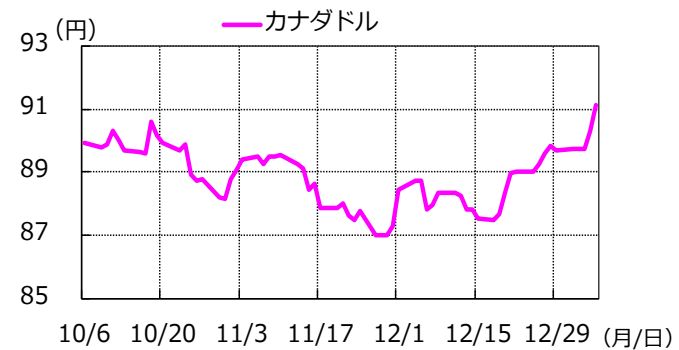
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

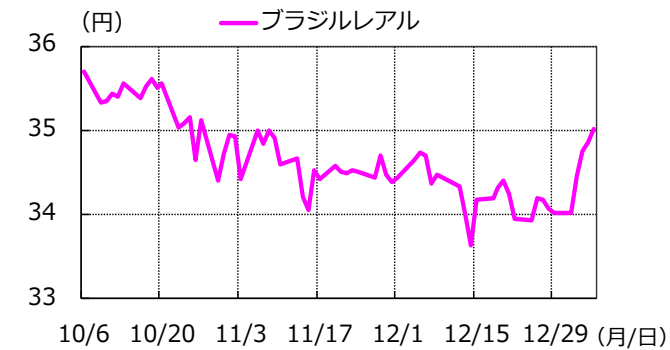
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/10/6～2018/1/5

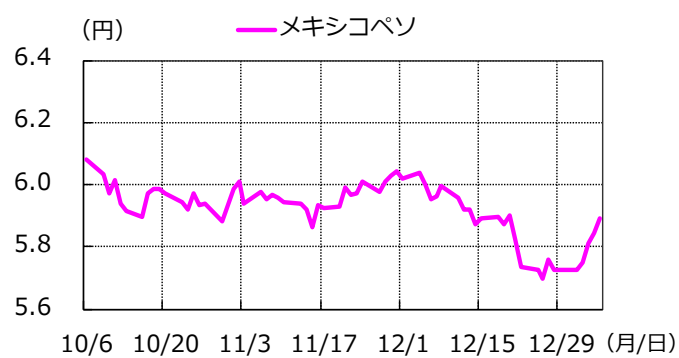
カナダ



ブラジル



メキシコ

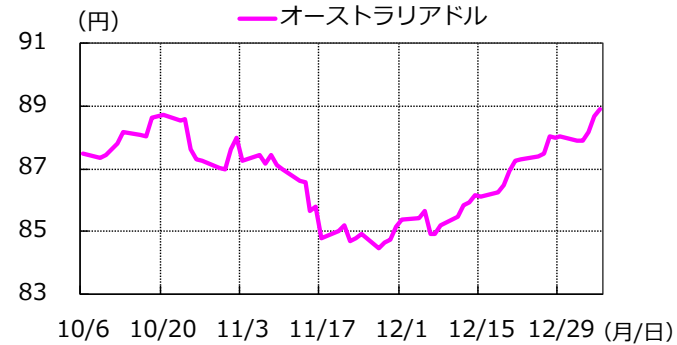
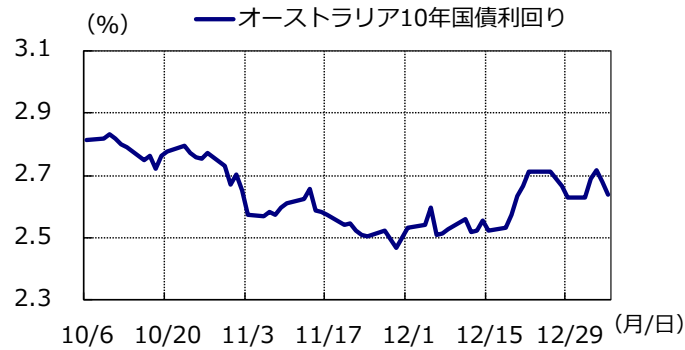


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

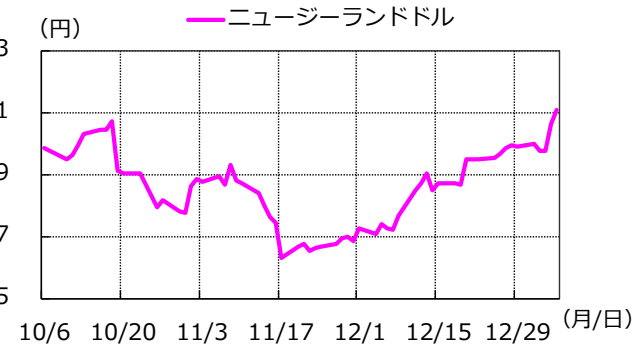
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/10/6～2018/1/5

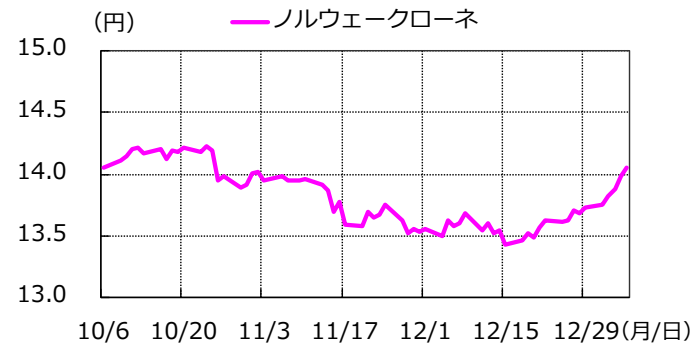
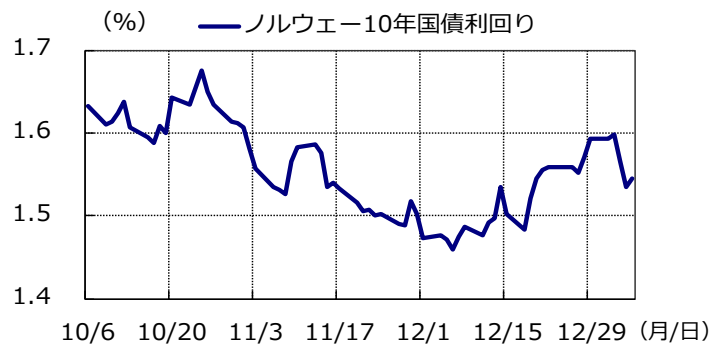
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

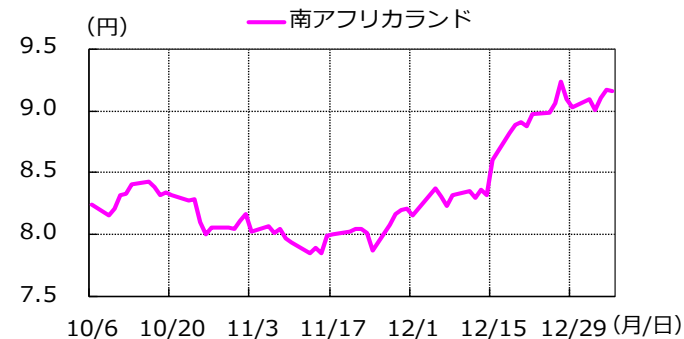


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/10/6～2018/1/5

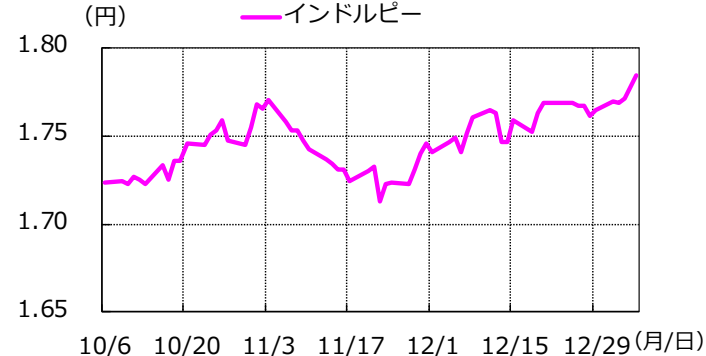
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入る有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。